

令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 若園 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、5年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

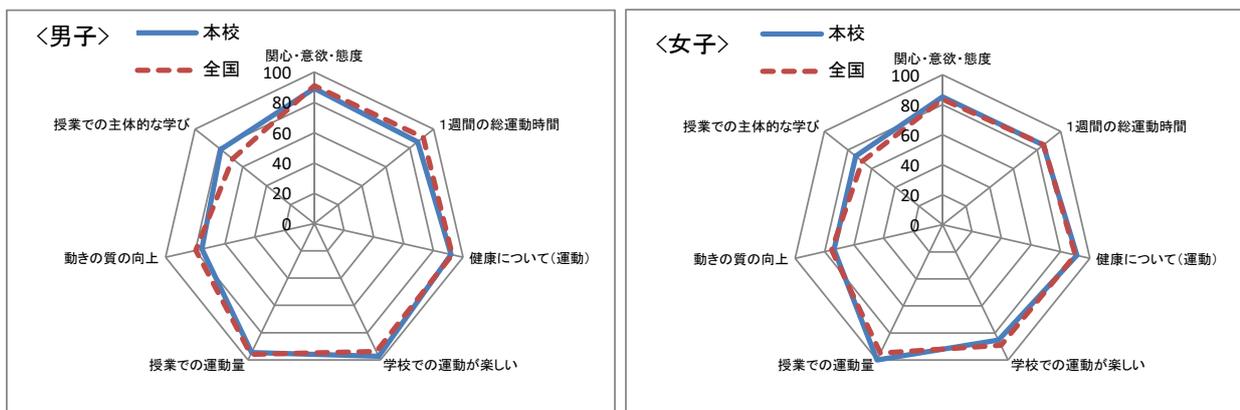
2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

概ね全国平均に達している。とりわけ「学校での(体育の)運動が楽しい」(男子)、「授業中にたくさん運動する」(女子)、および「授業での主体的な学び」(男女)などのポイントが高く、体育学習への関心が高く授業改善の効果が見てとれる。ただ、男女ともに「動きの質の向上」の実感については課題が残る。学びの質をさらに高め、自分なりの目標を明確にもたせて取り組ませ、達成感を味わわせる学習活動を継続して行っていく必要がある。

4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

体育科の学習においては、運動特性を生かして活動を工夫し、授業の始めに走やジャンプ運動を取り入れる等、生涯健康で生活できる基盤づくりを行う。また、ICTを活用し自分の動きを撮って、自ら振り返るようにするなど児童が主体的に学べる場づくりを進める。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

本校では、1学期は新体カテスト、2学期はなわとび集会、3学期はかけ足集会(5分間走)に全校で取り組んでいる。家庭でもランニングをする等、日常的に運動に取り組む習慣を身に付け、頑張りを励ますとともに、学校通信などで積極的に啓発している。しかし、本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で活動が制限され、十分な取組の実施が難しかった。また、本年度は行えなかったが、北九州高校の生徒や中学校教員の出前授業等を通じた連携は、来年度以降も継続していく。